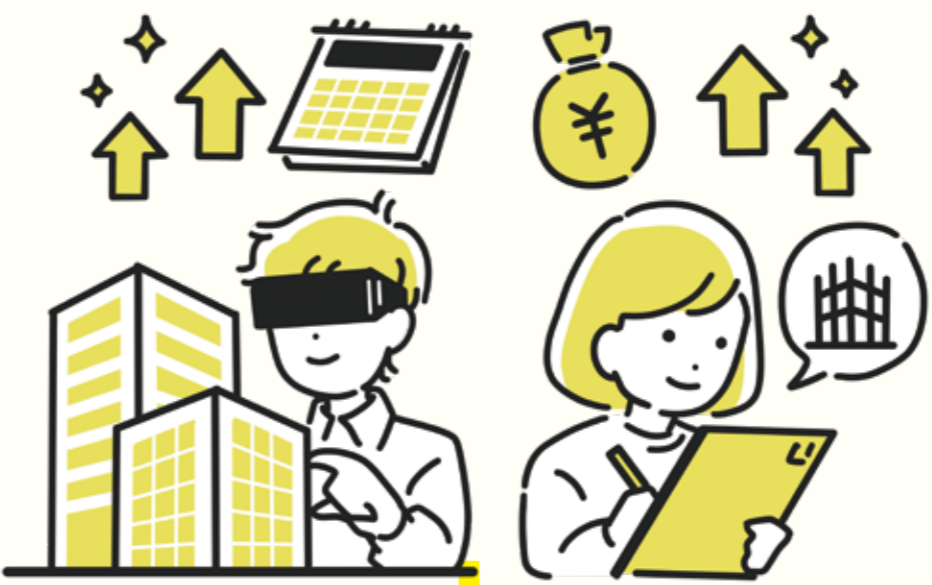


建設業が働きやすく

なっているってほんとう？

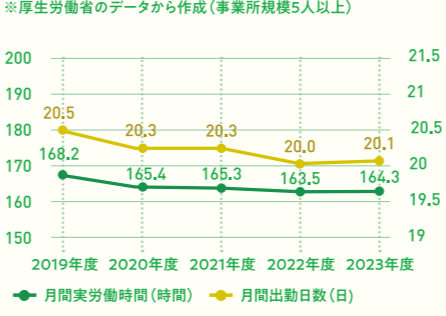
「仕事がキツイ」「休みにくい」といったイメージをお持ちの方に、建設業界の最新動向をご紹介します。

「長時間労働」と「人材不足」の解消へ

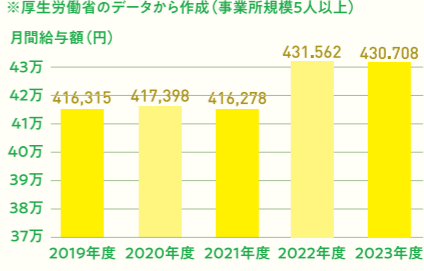


データを調べてみよう!

グラフ1: 建設業の月間実労働時間と月間出勤日数



グラフ2: 建設業の月間給与額



建設業界に対し、「残業が多い」「休日が少ない」といったイメージは強いものがあるようです。かつてそうした状況があったことは否定できませんが、グラフ1に見られるように、近年では建設業界でも「働き方改革」が進んでおり、実労働時間や出勤日数が減少傾向にあります。加えて、労働基準法の改正により、これまで建設業界では猶予されてきた、時間外労働の上限規制(月45時間、年360時間)が2024年4月から適用されており、建設業における時短化がさらに加速するものと見込まれます。

これに先立ち、日本建設業連合会では2022年3月に「時間外労働削減ガイドライン」の策定と合わせて自主規制目標を改定し、上限規制に前倒しで対応できるよう取り組んでいます。また、テレワークなどICT化

による効率化も進んでおり、働きやすい環境づくりは着々と実現しています。

一方で、少子高齢化による就労人口の減少を背景に、建設業の担い手不足は今も続いています。今後も駅周辺での再開発プロジェクトや、災害に強いまちづくりなど、建設ニーズは堅調に推移すると見られていることから、優秀な人材を確保し、定着してもらおうと、グラフ2に見られるように、建設業界の平均賃金は上昇傾向にあり、2023年度の実業分野の平均値(329,778円)と比較しても、待遇に恵まれていることは明らかです。今後も政府の賃上げ要請を追い風に、さらなる処遇改善が見込まれます。

就職先として建設業界に興味をお持ちの方は、こうしたデータも参考にしてみてください。

「女性が働きやすい」環境づくりへ



女性社員に聞いてみよう!



鈴木 絵理さん

当初は住宅メーカーを志望していたが、あるゼネコンの構造見学会への参加を機に、多様な建物に携われることや、雰囲気の良さに惹かれて同社に入社。現在は職場の先輩と結婚し、三児の母として仕事と育児を両立中。



初めての子どもを授かったのは入社3年目のこと。当時は施工管理を担当しており、上司に妊娠を告げ、産休・育休を取ってまた復帰したいと相談した時は緊張しました。しかし、「おめでとう!」と祝福してもらえ、「温かい会社でよかった」と改めて感じました。

育休中は初めての育児や保育園探しで大変でしたが、復帰した際は、また社会とつながれることが嬉しかったです。育児との両立に苦労は尽きないものの、夫や職場の皆さんのサポートもあり、仕事を続けることができました。

その後、2人目3人目を授かり、子育てとの両立を考慮して、受付業務や広告関係の部署に異動しましたが、現場監督として建設業の最前線にいた経験がとても役に立っています。一方で、子どもの発熱などに備え、常に時間の使い方や仕事の優先順位を意識して働くようになり、かえって生産性が高まったと思

います。また、コロナ禍でリモートワーク環境の整備が進み、子どもを看病しながら仕事することも可能になり、さらに働きやすくなりました。

仕事と育児を両立する上で「周囲に頼ること」ができるだけ具体的にどうしてほしいかを伝えることが大切だと思います。職場でも家庭でも、周囲の人たちは「何かあれば助けてあげたい」と思ってくれているもの。一人で抱え込まずに、自分から「助けて!」と声を上げることが重要性に、最近になって気づきました。

